

## 研究会・シンポジウム報告

2020年1月31日（金） 定例研究会報告

テーマ：「ベルンシュタイン文庫」にみられる災害復興～原資料を閲覧しつつ～

司会： 三澤一孔（客員、元神戸新聞記者）

報告： 近江吉明（所員、文学部教授）

時間： 16:00～17:00 第一部 ベルンシュタイン文庫閲覧

17:00～19:00 第二部 研究報告

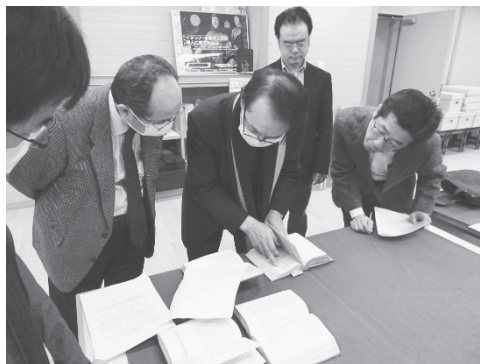
場所： 生田社研会議室

参加者数：12名

報告内容概略：

東日本大震災復興を多角的視覚から調査する2018-20年度社研グループ研究A「減災サイクルのステークホルダーと事前復興への取り組みの実相―巨大災害を射程に―」の公開研究会として、今回は、フランス革命に関わる貴重資料「ベルンシュタイン文庫」（ベル文）に見られる災害対応について、ベル文研究の第一人者である近江所員が資料解説・研究報告した。

まずは、社研会議室にて「ベル文」概説。その後、生田図書館の貴重資料書庫に移動して「ベル文」書架の案内。そこから4点をピックアップして一次資料の記載事項を読み下しつつ解説いただいた。



再び社研会議室に戻り近江所員の研究報告となり、「被った不幸を正義に基づいて修復し、個別の不幸に同情して人道に基づき助けること」という共和主義の精神に

基づき設置された革命政府の公的救護委員会の役割、しかしながらこれがその後の王政復古以降、そこで謳われた「福祉を受ける権利」が「元の『慈善』へと後退」する事情が詳述された。

近代国家における災害対応は社会保障の枠組みの延伸の中から紡ぎだされてきていることが確認されつつ、それが動揺する態様（絶対王政の救貧政策）が合わせて論じられた。

記：専修大学人間科学部・大矢根淳